



NPO 法人 京都観光文化を考える会

都草だより

第46号
 発行人：小松香織
 編集人：西野嘉一
 発行所：京都市上京区
 下立売通新町西入
 京都府庁日本館2階
 電話：075-451-8146

■【新春に寄せて】



謹んで初春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様にはお元気で新年をお迎えになられたことと存じます。旧年中のご厚情、お力添えに深く感謝いたしますとともに、ご多幸を心より祈念いたします。

さて本年は明治 150 年という節目に当たります。幕末から維新という激動の歴史の大転換点となった舞台が、正に京都御所・御苑でありました。過日御苑内の神社から頂いた冊子に、「池水に小舟うかべてあそびつる昔こひしきふるさとの庭」と明治天皇が京都を懐かしまれて詠まれたという御製があり、日頃ガイドを務める折、御所のお庭ではその情景を思い描きながらご案内しております。今夏で丸 5 年になる都草歴史散策ツアーが実を結んだ一つの例として、今年の 11 月から京都新聞『御苑さんぼ』の都草会員による記事の連載がございます。会員の皆様からは「スクラップしてます！」などのお声も届き、大変好評をいただいております。またその効果は予想以上のツアー参加者の増加に表れており、改めてその反響に驚いているところです。それがひいては御所・御苑ガイド担当会員のモチベーションアップにも繋がり、二重の喜びとなっております。

今年も御苑をはじめ、都草の多種多様な活動がそれぞれ皆様の自己実現の場となりますよう、そしてなにより皆様が楽しく充実した日々を過ごせますよう願っております。

本年もご指導の程よろしく願いいたします。(理事長 小松 香織)

■【新年会】



平成 30 年の都草新年会が、1 月 29 日（月）正午から京都東急ホテルにおいて、和気藹々とした雰囲気の中で盛大に催された。創立当初のメンバーから新人メンバーまで総計 54 人の参加者を迎えての楽しい宴となった。

まずは小松香織理事長の挨拶である。都草のますますの各方面での活躍、京都新聞連載の『御苑さんぼ』のコラムが好評なことなどが報告され、ついでに隠れインフルエンザであったことも披露されて、場の雰囲気を最初から一気に和ませていただいた。そして顧問である井上満郎先生のお言葉の後、住邦会会員の音頭による乾杯へと進む。しばしの談笑のあと、西田民子会員の箏演奏をバックに「世界に一つだけの花」「花は咲く」を全員で合唱。とは言いながらなかなか声が出にくいなか、野津隆会員と司会の岸本幸子理事が率先して歌ってくださった。ついで福岡亮会員の「さざんかの宿」。キーは高かったが熱唱。そして中江好喜会員による恒例のお楽しみクイズ。全てが難問ばかりで、さすがの都草会員たちも大苦戦。それでも賞品をいただいて大いに盛り上がった。さらに吉岡央会員のクイズから、「花笠音頭」の鳴り物つきの歌唱指導まであり、新年会は最高潮。最後に東急ホテル様による楽しい逆ビンゴゲーム（負けた人から勝っていく）。



高橋明俊副理事長の閉会の挨拶から熊谷喜輝副理事長の一本締めで、和やかで楽しい会は終わった。(会員 植山 政雄)

■【第7回 バス研修旅行】



「横蔵寺 三重塔の前にて」

昨年の11月27日（月）、第7回バス研修旅行が行なわれました。今回は晩秋の美濃へ。谷汲山華嚴寺をめざして、定刻通り京都駅を出発。途中、中江好喜研修部長の提案で、美濃国分寺へ立ち寄りたい旨を運転手さんにお伝えしたところ快諾くださり、予定にない訪問先が急遽決まりました。バスガイドさんも初めてということでご一緒に加わっていただき、青空の下広々とした国分寺跡に立ち、1300年前の当時の姿に思いを馳せました。11時30分、西国三十三ヶ所霊場の満願寺である華嚴寺に到着。皆様、思い思いにお参りされていました。

昼食には郷土料理のこんにやくや豆腐の田楽を頂いた後は、2カ寺目の横蔵寺（写真）へ。「美濃の正倉院」といわれるゆ

えんでもある素晴らしい仏様と対面できました。帰りのバスの中では恒例の中江部長によるクイズ大会。本日訪れた岐阜県や、西国三十三ヶ所霊場に関連した問題と解説を楽しませていただきました。目標通り17時30分、京都駅到着。無事解散となりました。（副理事長 松枝 しげ美）

■【西陣の町家で日本の文化に触れよう】



1月5日（金）「明日の京都文化遺産プラットフォーム」と都草の共催で、西陣の町家古武邸において「新春子供茶会～百人一首であそぼ～」を開催しました。当日は風花の舞う寒い日でしたが、邸内はストーブで暖められて、寒さの中歩いてきた子供たちをホッとさせてくれました。お正月飾りで調えられた玄関や座敷、床の間の掛け軸やお花。坪庭の石灯籠には灯りがともされ、京町家の新年の迎え方を学ばせていただきました。

古武邸の清々しい空間で、43名の小学生が午前と午後に分かれお茶会と百人一首を楽しみました。はじめに古武博司氏が洛

中洛外について話されました。豊臣秀吉の都市計画により京の都を取り囲むように構築された城壁を御土居といい、内側を洛中、外側が洛外と呼ばれるようになりました。また「寺ノ内」「寺町」の成り立ちや間口三間以上の町家に税を課したことなど、興味深いお話を伺いました。

引き続き同じ広間で百人一首のカルタ取りをしました。宮川恭子会員から具体例を交えた七五調のリズムについての楽しい話と百人一首のわかりやすい解説とルールの説明がなされいよいよスタートです。詠み手は安田富枝会員。カルタ取りに慣れている子供たちが多かったこともあり午後の部では白熱戦となり、会場は熱気に包まれました。

その後別室のお茶会の席に移動しました。須山里己会員からお菓子とお茶の頂き方について簡単な説明を受けた後、運ばれてきたお菓子とお抹茶を頂きました。慣れない正座やお辞儀に戸惑う子もみられましたが、皆一様においしかったとの感想を述べており、子供たちの楽しんでる様子が伝わってきて、私たちもうれしくなりました。

古武氏は1998年から「西陣の町家・古武」を主宰され、文化的活動の会場として様々な企画を実施しておられます。演奏会、茶の湯、着付け教室、修学旅行生の見学、海外からの訪問等々、多岐にわたる町家活用事例には目を見張ります。

（会員 寺村 いく子）

